

新規就農先輩の軌跡 No.38

<p>新規就農者の素顔</p>	<p>農業経営の状況（現在）</p>
<div data-bbox="188 304 738 714" data-label="Image"> </div> <p>氏名：山城 克己（やましろ かつみ） 住所：洲本市五色町 年齢：46歳</p>	<p>施設：ビニールハウス 29a 経営内容：ハウスいちご 23a（高設栽培） 育苗ハウス 6a 労働力：本人、妻 出荷先：スーパー、ケーキ店 観光（もぎとり）</p> <div data-bbox="783 562 1305 949" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1091 815 1366 931" data-label="Caption"> <p>夫婦でいちご作業の様子</p> </div>
<p>就農から現在まで</p>	<p>就農で良かった点、苦労した点</p>
<p>1999年 大手スーパーに勤務しながら県農業会議の紹介により、土日に明石市魚住町清水にて体験実習（いちご）を実施 2000年 就農を決意し退職後 農業大学校実践農場研修を実施、 2001年 受け入れ体制がある五色町で就農（当初高設いちご 16a） 2002年 高設いちご 23aに規模拡大 2008年 ひょうご安心ブランド認証取得 現在に至る</p>	<p>○良かった点 ・ストレスが無いこと。ストレスがないと心身共に健康になれ、幸せになれる。 ・お客さんに、おいしいと言われ評価された時、いちごを作って良かったと思う。 ○苦労した点 ・思った以上に経費が必要であったこと。（すぐに数十万円単位のお金がかかった。） ・農業は倒産することはないが、自然相手で作業は天候に大きく左右される。 ・休みがない。</p>
<p>農業をめざした動機</p>	<p>後輩へ贈る言葉</p>
<p>サラリーマン勤務時代、仕事の環境が悪く、将来に不安を感じていた。 そんな時、職業として農業に注目し、県農業会議へ相談し、体験実習受入農家が誇りを持ち取り組む姿勢に感銘し、農業を志すことを決意した。 その後、農業大学校実践農場研修を経て、就農に至った。就農前後に様々な支援があり、感謝している。</p>	<p>・お金が必要（最初は1,000万円必要ではないかと思う）であり、ある程度の投資をしないといいものは作れない。 ・1人ではダメである。1人と2人とでは、4～5倍作業の段取りが違う。 ・儲かるものではないが、農業は倒産しない。 ・一に負けん気と根性。二に体力が必要。 ・農業の仕事が好きでないとできない。</p>